

老健 ほっかいどう

一般社団法人北海道老人保健施設協議会



特集 03

今こそ見直しを図ろう！
通所リハビリテーション

クリアコート千歳／げんきのでる里／
コミュニティホーム白石／ゆう



02 巻頭言
名誉会長 西澤寛俊

06 ろうけん拝見
十勝「アメニティ本別」「ヴィラかいせい」

08 支援相談員のリレーコラム Vol.2

INFORMATION

「第28回北海道老人保健施設大会」
振り返り&結果報告

巻頭言

希望を持って 多職種で難局を乗り越えるとき

一般社団法人北海道老人保健施設協議会 名誉会長
社会医療法人恵和会

理事長 西澤 寛俊



新型コロナウイルス感染症が急拡大し、政府は「まん延防止等重点措置」を1都10県で適用する方向で最終調整に入った、とする報道が先ほど流れてきました。新型コロナウイルスが確認されて3年目を迎えるなか、新規感染者数が過去最多を記録するのも時間の問題という状況に至りました。

その主役は「オミクロン株」になります。デルタ株に比較して病原性が低く、感染伝播性は高い、との特徴が伝えられています。その特徴を踏まえて、感染対策の再徹底を図り、感染拡大の防止措置を講じることは当然のこととして、感染症発生時のBCP（業務継続計画）の整備についても再構築する必要があります。

サービスの継続、利用者の安全確保、職員の安全確保を目的としたBCPに基づく適切な行動こそが、地域の高齢者を支える一助になるものと確信しています。また最前線を担われている皆様には、過去の経験を活かし、多職種協同により希望をもって、この難局を乗り切っていただきたい、と切に願います。

さて昨年は、東京オリンピック、パラリンピックが無観客で開催されました。選手たちの活躍は別として、コロナ禍における生活上のさまざまな制限、苦悩に満ちていた我が国の状況を象徴

するかの様な残念なイベントであったとの印象が残りました。当協議会においては「ピンチをチャンスに」とのタイトルのもと一昨年中止とした第28回北海道老人保健施設大会を11月1～15日に開催いたしました。オンデマンド方式の採用により、各施設で多くの職員が視聴可能になりました。基調講演・特別講演はじめ各施設からの演題発表は、知識や技術の研鑽ばかりでなく、コロナ禍の不安やストレス、孤独感に苛まれる職員のメンタルヘルスにも寄り添ったものと思います。今後とも会員の皆様には、当協議会の活動に対して、ご理解とご支援を頂戴したい、と思っております。

今年の干支は寅になります。漢字の由来は、草木が伸びていく様を表したものとされています。転じて、寅年は春が来て根や芽が生じて成長する時期、草木が伸び始める年とされています。今年の干支のごとく、新型コロナを克服し、平穏な日常を取り戻せることを強く祈念いたします。

最後になりますが、最前線で新型コロナウイルス感染症に向き合われている医療・介護従事者の方に深く感謝申し上げますとともに、無念にも感染症でお亡くなりになられた方々、そのご家族の皆様には衷心より、お悔やみ申し上げます。

新役員のご紹介

医療法人北翔会 介護老人保健施設 豊翔の郷

施設長 貞本 晃一



新たに北海道老人保健施設協議会の役員となりました北翔会介護老人保健施設豊翔の郷施設長の貞本晃一でございます。よろしくお願いたします。私は2020年12月まで小樽市保健所の所長として約3年勤務しておりました。12月28日の仕事納めをもって退職、職員に見送られて小樽を後にしました。その矢先に新型コロナ感染が大爆発、なんと後任の所長に申し訳ない気持ちであります。小樽市保健所の前は道立衛生研究所長で北

海道職員として定年退職致しました。札幌医科大学公衆衛生学で大学院を終了してから32年間、保健所、道庁、道立病院等で勤務、仕事の大半が僻地の医師確保でしたが、離島の道立診療所の医師が確保できず、自ら離島に赴任したこともありました。

今後は、老健協の発展のために微力ではありますが精一杯勤めさせていただき所存です。諸先輩にはよろしくご指導のほどお願い申し上げます。

医療法人資生会

介護老人保健施設クリアコート千歳

千歳市

- DATA
- 定員: 50人(1日平均約25人)
 - 人員体制: 13人/介護福祉士8(非常勤1含む)、看護師2、支援相談員1、理学療法士2
 - 平均要介護度: 1.78

通所リハビリの様子はブログで小まめに発信中。利用者さんの自立支援を基本に、満足度の高いサービスを提供します!



左から
療養師長・
中島奈枝さん、
通所リハビリテーション
主任・北濱一代さん、
事務長・
澁谷祐介さん

医療法人やわらぎ

介護老人保健施設ゆう

南幌町

- DATA
- 定員: 75人(1日平均約59人)
 - 人員体制: 13.7人/介護福祉士9(非常勤3含む)、看護師1、支援相談員1、理学療法士2、作業療法士1、言語聴覚士1、リハクラーク1
 - 平均要介護度: 1.61

通所
リハビリテーション課の
みなさん



コロナをきっかけにはじめた選択プログラムが大人気。職員一丸で利用者さんがワクワクするイベントを提供していきたい!

今こそ見直しを図ろう!

特集

通所リハビリテーション

長時間の通所リハビリテーションにおいては、個別リハビリを基本としながらも、そのほかの取り組みが他施設との差別化を生むカギ。コロナ禍で大きな打撃を受けている今だからこそ、新しい取り組みをはじめ絶好の機会になるかもしれません。4つの事例を紹介します。

社会福祉法人溪仁会

介護老人保健施設コミュニティホーム白石

札幌市

- DATA
- 定員: 55人(1日平均約41人)
 - 人員体制: 13人/介護福祉士10(非常勤1含む)、看護師1、作業療法士4、言語聴覚士1
 - 平均介護度: 1.6

マシンに頼らないリハビリに力を入れています。卒業見込みのある利用者さんは、関係機関との連携を図り、積極的に支援します!

所長・
水島茂樹さん



作業療法士・
藤田由也さん

社会福祉法人ノテ福祉会

介護老人保健施設げんきのでる里

札幌市

- DATA
- 定員: 130人(1日平均約70~80人)
 - 人員体制: 人/介護福祉士21(非常勤2含む)、看護師1、作業療法士7、言語聴覚士2、理学療法士8
 - 平均介護度: 1.35

開設当初から選択プログラムや施設内通貨を導入。楽しさはもちろん、しっかりリハビリ効果を実感できるような内容を意識しています!



運営担当部長・
理学療法士
渋谷宣哉さん、
介護福祉士
戸沢愛子さん

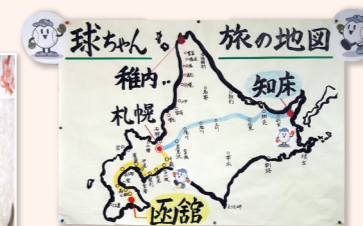
CASE 1

ゲーム性あふれる 歩行訓練

コロナ禍によって活動範囲が限られるなか、いずれの施設も利用者のADLを維持を図るための歩行訓練を強化中です。



げんきのでる里では、歩いて問題を探すウォーキングクイズを実施



コミュニティホーム白石では、歩いた距離が札幌からどのエリアまでの距離になるかを示し、旅する感覚を演出



ゆうでは、歩行と脳トレを同時に訓練できる「歩こう会」を開催
クリアコート千歳では、広々とした体育館で自主性にまかされた自己実施リハビリを行う

CASE 2 多彩なリハビリプログラム

利用者自らリハビリメニューを選ぶことができる選択プログラム。大規模型の「ゆう」と「げんきのでる里」では、数多くのプログラムを設けており、人気を呼んでいます。

「ゆう」の主なプログラム

- 料理教室
- ゆう工房(手芸・木工等の創作)
- 映画観賞会
- ゆうCafé
- ゆう農園(夏季のみ)
- パークゴルフ(夏季のみ)
- 釣り堀(夏季のみ)
- スタンブラリー(歩行自主訓練)

コロナ禍という苦境を逆にとり、2020年秋からQOLやIADLに紐づいたリハビリ主体の多彩なプログラムを考案し、実践しています。プログラムは曜日ごとに設定し、事前に参加者を募集。利用者さんが少ない曜日に、料理や工作などの人気のプログラムを持っていくといった調整も効果的に働いています。「自分の家族に通ってほしいデイケア」を念頭に、何でもそろそろショッピングセンターのような通所リハビリをめざしています。

通所リハビリテーション課
相談係長 和田涼次さん



ピックアップ!!

釣り堀

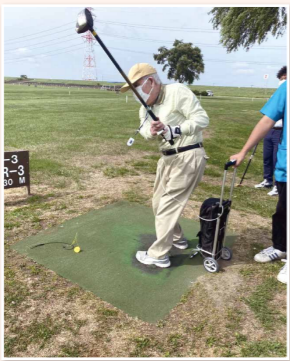
岩見沢市内の釣り堀に、車いすの利用者さんを含む数名で出かけました。釣れた人もいれば釣れなかった人もいて、シナリオ通りにはいかないのが醍醐味。かえって利用者さんの「また行きたい!」というモチベーションにつながっているようです。



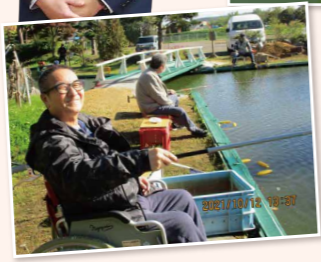
この日は2人の利用者に職員2人が同行

これも人気!

野菜の栽培から収穫までを楽しむ「ゆう農園」。豊作だったじゃがいもで、ポタージュやプリンを作って味わいました



在宅酸素療法をしながらも
ナイスショットを決める利用者



久しぶりの釣りに
満足気な表情を見せる利用者

ピックアップ!!

パークゴルフ

パークゴルフが趣味だった利用者さんと、バスに乗って町内のパークゴルフ場に行きました。お金を扱う訓練にもなり、生活行為向上リハビリテーション実施加算の算定にもつながりました。買い物など、利便性の悪い地域ならではの課題はたくさんあるので、一つひとつのニーズに丁寧にアプローチしていきたいと思っています。

「げんきのでる里」の主なプログラム

- 社交ダンス
- 音楽クラブ
- ヨガ
- 水墨画
- フラワーアレンジメント
- 陶芸教室
- 料理教室
- マッサージ
- エステサロン
- パン教室
- 喫茶店
- スタンブラリー

開設当初から、利用者さんの自立をめざした「生活自立倶楽部」と名付けた選択式プログラムを実施しています。利用者さんが、その日に取り組むリハビリプログラムを自分で決めるスタイルで、参加には施設内通貨「アンデルセン通貨」を支払う仕組みです。コロナによって外部講師を招くプログラムは休止していますが、そのほかは小規模の人数にするなど感染対策を講じながら継続しています。



	10時	11時	12時	13時	14時	15時
1	入浴	方身計運動	昼食	スタンブラリー		
2	入浴	ヨガ	昼食			
3	入浴	スタンブラリー	昼食	方身計運動		
4	入浴	陶芸体験	昼食	スタンブラリー	方身計運動	
5	方身計運動	ヨガ	昼食			
6			入浴	昼食	スタンブラリー	
7			入浴	昼食	スタンブラリー	
8			入浴	昼食	スタンブラリー	

ホワイトボードに貼られた
利用者それぞれのリハビリスケジュール



パンを焼き上げるオーブン

ピックアップ!!

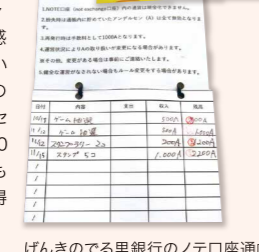
料理・パン教室

大きな厨房設備やパンを焼くためのオーブンを設置し、定員制で教室を開催。料理経験のなかった男性利用者でも、パン生地をこねたり、食材を切る動作がリハビリに効果があると説明すると、納得して一生懸命取り組んでいます。

ピックアップ!!

アンデルセン通貨

以前は紙の通貨でしたが、感染対策の観点から通帳を用いた残金管理に変更。利用者の紹介では10,000アンデルセン、利用が確定すれば50,000アンデルセンを支払う得点も設けており、新規の利用者獲得につながっています。



げんきのでる里銀行のノート口座通帳

これも人気!



陶芸教室用の窯を設置し、利用者さんが作成したマグカップや皿などをその場で焼き上げています

CASE 3 卒業からの就労を支援!

移行支援加算(前・社会参加支援加算)など、通所リハビリからの卒業を支援する仕組みの強化が推進されています。卒業後は「就労」も視野に入れた支援も役割としてあるなか、コミュニティホーム白石では少しずつ取り組みを開始しています。

「コミュニティホーム白石」の事例

きっかけ

通所リハビリに通っていた50歳女性Aさん(要介護2)。事故により高次脳機能障害で左片麻痺。「働きたい」意欲が強かったことから、就労移行支援事業所と協力して取り組みを開始。

通所リハビリでの訓練

作業療法士と言語聴覚士による訓練のほか、内線や携帯電話を使った電話対応の練習、手紙の三つ折り、封筒の仕分けなど。外出支援として、作業療法士によって地下鉄に乗り込む練習も実施。身体が思うように動かさず何度か心がくじけそうになっていたAさんだったので、「焦らず、ゆっくりでいいですよ」と精神面のサポートも心がけた。

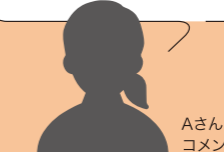
結果

いくつかの事業所では不採用となったものの、期せずして当施設の障がい者雇用空きが出て、施設ケア部の看護助手として採用に。通所リハビリ開始から約3年、2020年4月に通所リハビリ卒業式を行った。

現在

主な業務はカルテの整理、FAXやコピー、葉巻整理など。週3回、10:00~15:00まで勤務を継続中。

通所リハビリでは、さまざまな仕事を提供してもらい、訓練をサポートしてくれました。就労から1年が経過しましたが、私ができる業務レベルを理解してくれていて、とても働きやすい職場です。最初は「もっと色々な業務ができれば…」と落ち込むこともありましたが、周囲の支えもあって、今は時間内に自分ができることに精一杯取り組もうと、前向きな気持ちで働くことができます。



Aさんのコメント

通所リハビリの卒業は、課題だらけです。ご本人はもちろん、ご家族やケアマネジャーの多くは「ずっとここにいたい」というのが本音。でも老健の通所リハビリとして、地域のたくさんの方々に支えられていくためには、回転率の向上も不可欠です。就労意欲がある方もまだ複数いるので、積極的に取り組んでいきたいですね。



言語聴覚士による
発語訓練も
ニーズが高い



作業療法士
藤田さん

POINT

人員体制の工夫

1 事務作業を担う人材を活用!

限られた人数で、どうやって通所リハビリを充実させていくかは悩ましい問題。「ゆう」では、リハビリ会議の記録作成や連絡帳の記載などを担う「リハクラーク」を採用し、職員の労力削減につなげています。



リハビリ室の一角で事務作業を行うリハクラーク

2 元気な利用者を巻き込む!

「げんきのでる里」では、「げんきワーク」と名付けたリハビリを兼ねた利用者のお手伝いの仕組みを導入し、タオルたたみや雑巾縫いなどの作業に施設内通貨を支払っています。利用者の対価を得る“達成感”や“働く喜び”も生み出しています。

メニュー	単価	枚数	合計
タオルたたみ	200	1	200
雑巾縫い(1日1枚以上)	200	1	200
合計			400

「げんきワーク」
「もらえるプログラム」
「順次追加予定!」

「もらえるプログラム」として
利用者の仕事を掲示

POINT

利用者募集の工夫

1 支援相談員の紹介!

利用者集めの要となる支援相談員が、いかに自施設の通所リハビリの状況や強みを把握できるかは大きなカギ。小まめな紹介が吉!

2 地域へ的小まめな情報発信!

SNSや定期的に発行する「通所リハビリ通信」などを通じ、ケアマネジャーをはじめ地域に自施設の強みを発信することが効果的!

CASE 4 業務改善の取り組み ~入浴環境編~

2021年の介護報酬改定において、利用者のさらなる自立支援をめざし、見直しが行われた入浴介助加算。転倒や溺水などの危険、限られた人員体制で自立を支援するのは難しい面がありますが、クリアコート千歳では、まずは環境改善から着手しています。

「クリアコート千歳」の入浴環境の改善事例

きっかけ

入浴時間は、午前中のみ。3人の職員で約30人の利用者を介助していたが、利用者の介護度が進んだことで、介助の負担が増大。職員本位での介助になっていたほか、入浴後に一息つく間もなく昼食時間となるなど慌ただしく、利用者にも負担をかけていた。

結果

環境整備も終わり、入浴の順番変更に対する利用者の承諾も得られるなど準備が整った頃、コロナ禍に見舞われ休業状態に。しかしこれをもって変更を決定する機会とし、休業明けには新たな運営体制で再開。結果、職員の余裕が生まれて、着脱や洗身などの自立をうながす声かけや見守りができるようになった。インシデントも減ったほか、入浴時間短縮も実現。

改善内容

午後入浴時間を新設し、利用者の介助量によって午前と午後で振り分けを行った。狭い空間で危険が多かった脱衣室と浴室は、椅子を減らして作業スペースを広げて動線を確保して環境を整えた。通所リハビリの業務全般を見直す機会ととらえ、職員全員で議論を交わした。

入浴環境改善に向けて職員の業務の洗い出しを行った結果、通所リハビリ業務全般を改善でき、新たな短時間リハビリの時間帯も新設しました。でも、とにかく利用者さんの満足度が上がったのが何よりの成果。入浴介助のなかで、利用者さんと会話をする時間も生まれて、より良好な関係性を築いています。今後は、加算の算定も視野に、取り組んでいきたいですね。



脱衣室のピフォーアフター



左から療養師長中島さん、通所リハビリテーション主任 北濱さん、事務長 渋谷さん

十勝管内の老健に
お邪魔しました!

ろうけん 拝見!

社会医療法人博愛会
介護老人保健施設ヴィラかいせい

医療法人社団刀圭会
介護老人保健施設アメニティ本別

本別町
帯広市

医療法人社団刀圭会 介護老人保健施設アメニティ本別

官民共同でより良い福祉サービスをめざす



入所定員 80名

通所定員 20名

超強化型

中川郡本別町西美里別6-18
TEL 0156-22-9311



左から渡邊友樹さん、佐藤亜美さん、西田さん、トゥオンさん、クオンさん、小森恵介さん

学生に町の魅力を伝える 取り組みに着手

本別町内唯一の老健となるアメニティ本別。町の保健福祉課や社会福祉協議会などが入る総合ケアセンターと本別町国民健康保険病院と廊下でつながれた環境を活かし、町ぐるみで介護人材確保に取り組んでいます。その1つが、道内の介護福祉士養成校に通う学生を対象にした「ほんべつ福祉セミナー」の開催です。夏休み期間の2泊3日で、同施設を含む介護事業所の職場体験はもちろん観光施設なども周り、町の魅力を知ってもらおうというもの。事務部部長の西田拓己さんは、「知らない町で働く不安は大きいと思うので、まずは本別町がどんな町で、どん

な人が働いているのかを知って好きになってほしい、との考えからはじめました」と説明します。札幌や釧路、北見などに足を延ばして案内に向き、これまで町外出身の学生が町内の介護事業所に就職、同施設の就職にも結びついています。コロナ禍の影響により現在は中止していますが、時期を見て再開を予定しています。

また、町民や福祉関係者などが保険福祉施策について話し合う「健康長寿のまちづくり会議」のメンバーとしても活動し、後期高齢者がピークを迎える年を見据えた体制構築について議論を交わしています。「町のニーズをふまえて、当施設としてできる地域貢献について計画を立てている段階です」(西田さん)。



上/ほんべつ福祉セミナーで学生と交流を図る職員
下/本別町の印象などについてグループワークも行う



上/食事の配膳下膳を手伝うメッセンジャー
下/送迎は事務員やパートが担い、現場負担を軽減

タスクシェアで 在宅復帰強化を実現

介護人材確保と並行して取り組んでいるのが在宅復帰です。加算型だった2019年に本格的に目標を掲げ、2020年の5月に在宅強化型、2か月後に超強化型老健へとステップアップを図ってきました。実現のために取り組んだのは、看護師や介護職が担当する一部業務を事務職が担うタスクシェアの試み。備品の整備や在庫チェックのほか、介護職員初任者研修を修了した事務職が口腔ケアを行い、フロア職員の労力削減に取り組みました。

さらに、「メッセンジャー」と名付けた介護助手をはじめ、外国人材や高校生アルバイトといった多彩な人材も積極的に活用しています。「さまざまな人材が活躍できるよう、一人ひとりに適した働き方を見つけるのが当施設のやり方。一定の質を担保しつつ、各々の個性を伸ばすような業務の振り分けや働きやすい環境づくりに励みました」と西田さん。

今後については、「人材不足を言い訳にせず、人材がいなくてもどう新しいことに挑戦できるか工夫を凝らし、官民協働で“評判の良い施設”になれるよう取り組んでいきたいですね」と抱負を語ります。

事務連 さかから 質問です

Q 町外出身の学生が本別町を就職先を選んだ理由は何ですか？

A 町職員や町内事業所職員との良好な関係性や明るい雰囲気が伝わり、「住んで働いてみたい」と思ってくれたのではと感じています。

社会医療法人博愛会 介護老人保健施設ヴィラかいせい

密な連携で栄養とリハビリに注力



入所定員 100名

通所定員 30名

超強化型

帯広市西22条南2丁目2-10
TEL 0155-37-7600



左から江波さん、高橋さん、大石さん、小川さん、山口さん

環境を活かした 食事提供とリハビリ

ヴィラかいせいが力を入れているのは、ユニット型ならではの家庭的な雰囲気を提供する食事や栄養の取り組みです。地元精米店から仕入れるこだわりの米はユニットごとに炊き上げ、おかずもその場で陶器の食器に盛り付けており、食事は準備も含めて入所者の大きな楽しみの一つになっています。月に1度は、提携する歯科医や歯科衛生士も交えた全職種でミールラウンドを実施し、食べる機能の維持・向上を促進。通所リハビリテーションにおいても、栄養アセスメント加算を算定し、退院から間もない利用者の食形態の観察や糖尿病などの疾患を抱える利用者を対象に、栄養介入を行って

ます。「先日糖尿病の利用者さんのケースで、ケアマネジャーとも連携して食事指導を行ったところ、HbA1c値を改善できました」と栄養科係長の山口裕子さんは説明します。

一方、いち早く在宅復帰に取り組んでいることから、9名のセラピストによるリハビリにも注力。このコロナ禍にあってもADLを維持するため、ユニットの一角に平行棒を設置し、個別リハビリを行う環境を整備しました。「80メートルと長い廊下も使って歩行量を維持し、出来る限りリハビリの質を落とさないようにしています」とリハビリテーション科科長の江波拓磨さん。これによって思わぬ相乗効果もあったようで、看護介護部科長の大石織絵さんは「リハビリの様子を間近で見られることで、現場の介護職員にも生活に密着したり

ハビリの理解が深まっています」と言います。こうした意欲的な活動を支えるのが、間接介護を担当する「ありが隊」や清掃を担う「かがやき隊」と呼ばれる地域人材の存在。今や総勢20名を超えるメンバーが活躍しています。



▲食事を盛り付ける「ありが隊」メンバー(右)
▶調理長が腕をふるうだし巻き卵は人気メニュー



▲ユニットに設けたリハビリスペースで歩行訓練を行う利用者
▶入所者と会話をする大石さん

法人内外の情報共有で 老健としての質を担保

法人内外の密な情報共有も同施設が大事にする取り組みです。今年度からは法人内の病院電子カルテとの連携が可能な介護ソフトを導入し、患者・入所者情報の共有を図っています。事務課課長の小川美紀さんは、「たとえば入所者さんが法人内の病院に入院した場合は、こちらから必要な情報を提供するとともに、病院からは入院中の様子や退院時の情報をキャッチでき、適切かつ効率的な対応が可能になっています」と説明します。相談課係長

の高橋俊明さんも、「運用は試行錯誤中ですが、ファックスやメールもこれに一元化することでペーパーレスや業務軽減にもつなげたい」と期待を込めます。

法人外では、十勝管内の老健で職種ごとに学習交流会を開催。ベッドの空き状況の共有やスキルアップ研修などを行っており、情報共有のみならず十勝管内の老健としての質を担保する機会にもなっていると。働きやすい環境づくりやICT化、地域貢献——、それぞれやりたいことは盛りだくさん。これからの取り組みに目が離せません。

事務連 こがわから 質問です

Q 「ありが隊」「かがやき隊」の存在が興味深いです。最大の効果はどんな所ですか？

A 専門職が各々の業務に専念できるようになったことに加え、地域の方々を支えられることで、基本理念の「十勝に根差した」運営を体現できています。

つながりによって養われる 実践力と利用者への貢献

はじめまして。リラコート愛全の松原さんからリレーコラムのバトンを受けました、介護老人保健施設手稲あんじゅの皆口です。私は支援相談員としてソーシャルワーク実践を行っていくうえで、さまざまな方々とのつながりが一番大切だと感じています。ご利用者様やご家族様のニーズにどれだけ寄り添って考えられるか、そのニーズをどのように職員につなげていけるか、職員との連携で良いチームワークを作れるか、日々の実践の一部分だけをあげても本当にやりがいのある仕事ばかりです。もちろんうまくいくことばかりではなく日々悩みながら模索しながらですので、地域の老健支援相談員の皆さんや専門職能団体の先輩方から

支援相談員・介護支援専門員

皆口さやか

社会福祉法人手稲ロータス会
介護老人保健施設手稲あんじゅ



いろいろな学ばせていただく機会を大切にしています。施設内で支援相談員は少数精鋭になりがちですので、他の施設との情報交換や悩みの共有が新しい視点につながります。またソーシャルワーク実践についての学びを継続することで、自分の実践力が向上しご利用者様の利益にもつながると考えています。

今年もつながりを大切に、良い学びを継続していきたいです。

NEXT ▶

今回は、介護老人保健施設ヴィラかいせいの高橋俊明さんです。2021年に「支援相談員研修」の運営で一緒にさせて頂き、帯広の地域性や地域の中での老健の役割を考えて実践されていることを学ばせて頂きました。

2022年3月5日(土)オンライン開催決定!

ご案内!

「令和3年度介護報酬改定後の各施設の取り組み ～ウィズコロナで考える施設運営(人材・サービス・財務)と支援相談員のかかわり～」情報交換や悩みの共有ができるグループワークも毎年盛り上がっています。是非、支援相談員の皆様ご参加ください。

2021年11月1日～15日オンデマンド開催

「第28回北海道老人保健施設大会」振り返り&結果報告

総ページビュー

41,203件

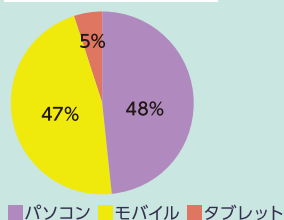
総アクセス数

4,404件

参加者(ユーザー数)

1,575件

デバイスの割合



アクセスが多かった時間

18:00-23:00

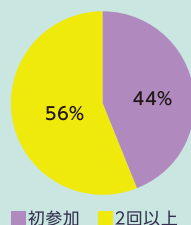
【大会全般】

アンケート

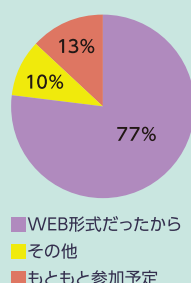
回答数
52人

アクセス数およびユーザー数と比べて回答が多く得られませんでした…。次回、どうかご協力をお願いいたします!

参加回数

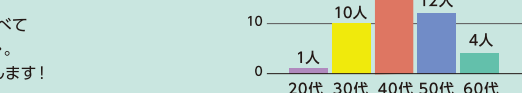


参加動機

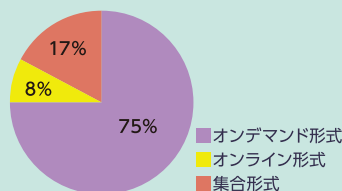


年齢層

(平均年齢46.7歳)

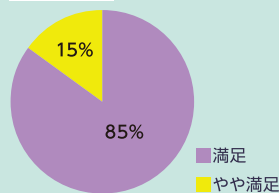


今後、希望する
大会形式について



「今回のようなオンデマンド形式であれば、スタッフ不足の施設も参加しやすくなるのでは」「何度も見直しができるので良かった」など、WEB形式を望む声が多く挙がった一方、やはり「他施設との情報交換がしたい」「再び、全道の老健職員の方と集まって懇親会もしたい」と集合形式の良さを訴える声も聞かれました。

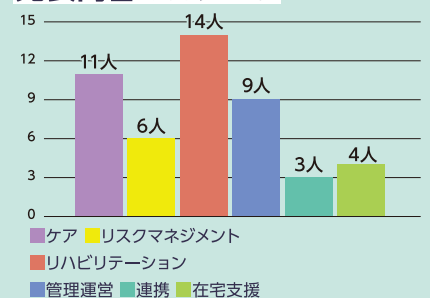
満足度



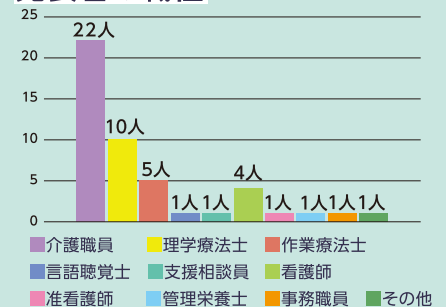
分科会発表の振り返り

47の演題が集まった分科会発表。コロナ禍にあっても、在宅復帰をめざす取り組みや廃用性症候群、フレイル予防に着目したリハビリテーションなど、各施設が独自に創意工夫で取り組んできた様子がうかがえました。

発表内容のカテゴリ



発表者の職種



たくさんのご参加、誠にありがとうございました! また、次年度お会いしましょう!!